

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成19年8月22日

【評価実施概要】

事業所番号	0770402592		
法人名	有限会社 矢吹薬局		
事業所名	グループホーム 羽音		
所在地	〒972-8311 福島県いわき市常磐水野谷町千代鶴176-1 (電話) 0246-72-1667		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなビル302号室		
訪問調査日	平成19年7月7日	評価確定日	平成19年9月3日

【情報提供票より】 (平成19年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 8月 3日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14人, 非常勤 0人, 常勤換算	9.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1～2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	10,500 円	
敷金	有() 無()			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 無()	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	450 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	3名	要介護2	5名		
要介護3	6名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	76歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	矢吹病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山間の静かな住宅地の中心にある、2階建て2ユニットのこのホームでは、ミニチュアダックスフンドが飼われており利用者や職員のアイドルになっている。このミニチュアダックスフンドを目当てに地域の子供たちが集まってくる。このホームでは、開設当初から町内会に入会し、地区行事にも積極的に参加しているため、地元の八坂神社の祭典の時は、必ずホーム玄関前まで御神輿が回り、利用者はおひねりを投げるのを楽しみにしている。さらに、地域の小中学校の体験学習等の受け入れをしており、地域との交流が盛んである。開設から3年が過ぎ、利用者の状態もさまざまである。医療連携加算はとっていないが、長くホームで過ごした利用者や家族から希望があり、ホームで準備している『ホームでの看取りに関する指針』と『インフォームドコンセント』の内容を説明し同意が得られた場合は家族の協力を得ながらターミナルケアも実施している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果について、良い点も悪い点も職員全員で情報共有し、一人ひとりが改善策を考え提案し、その内容をまとめてホームの改善策とした。利用者の思いや生活歴を把握するため、センター方式の記録へと変更し少しずつ記録が増えてきている。外部評価を自分たちのレベルアップの良い機会だと考えている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は介護サービスの質の向上の基本であると考え、全職員で取り組み、改善点について確認し、具体的な改善策を検討し、実現に向けて取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 運営推進会議では、「地域密着型サービスとしてのグループホームの位置付けについて」、「介護予防」、「平成19年度は、こんな事をやっていきたい」等のテーマを決め、地域包括支援センター、町会役員、民生委員、利用者家族等の委員が活発に意見交換している。さらに、運営推進会議で話し合った内容を地域へ向けて回覧し報告しているため、地域の理解が得られている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見箱を設置したり、電話や面会の時に家族の意見や要望を聞き取るよう働きかけている。通院介助やターミナルケアに関する依頼があり、職員は家族や利用者の立場に立って検討し、家族の協力も得ながら速やかに対応している。そのために必要な書類の整備もなされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームは設立と同時に町会に入会し、地域の清掃活動等に積極的に参加しているため、地元のお祭りでは、御神輿がホームの玄関前まで回ってくれる。さらに、地区内の小中学校と交流があり、中学生の総合学習として実習を受け入れ、小学校の学習発表会や運動会へ招待されている。昨年は、いわき交響楽団オーケストラ・コンサートにも招待され、利用者は最前列で音楽を楽しんできた。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「愛と奉仕の実現」というこれまでの理念としてはできているが、地域密着型サービスとしては見直しが必要だと思われる。	○	地域密着型サービス事業所として、地域との関わりを含めた理念に作り変えることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現在の理念を管理者が繰り返し職員へ伝え、理念を実践するためにサービス提供の場で具体化し日々の実践へとつなげている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に所属し、地域の清掃活動やお祭りなどの行事に参加していると共に、ボランティア等を受け入れ、地域との交流に積極的に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全ての評価結果について（良い点も悪い点も）職員間で話し合いをし、改善策を検討しながら取り組んでいる。前回の評価結果を改善するため、センター方式の記録へと変更し利用者や家族の思いと利用者の生活歴を把握している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活発な意見の交換がされている。運営推進会議の議事録を地域に回覧報告する事により、事業所の取り組みに対し理解を得ている。今後は、2ヶ月に1度の開催になると、さらに良いと思われる。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の「はのん通信」は利用者一人ひとりが違う内容で、日頃の様子が詳しく書かれており、利用者の写真を添え充実した便りである。金銭管理状況を同封し、家族等へ送付している。今後は、職員の異動等も一緒に報告できれば、家族の安心感も増すように思われる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、家族の面会時等に要望を聞き取ったりしている。通院介助やターミナルケア等への要望へ、速やかに対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員をユニット別に配置せず、職員の異動にもスムーズに対応している。利用者や家族の安心感を得るためには、職員だけでは限度があり、運営者の協力も必要だと思われる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者指導のもと職員のステップアップが図られる勉強の機会が確保されている。働きながらのトレーニングを通し、職員を育てる取り組みをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との管理者間交流はあるが、職員間の交流が少ない。また、情報交換を通じて互いにサービスの質を向上させるよう、他のサービス事業者との交流を予定している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は食事の準備の時に、料理の上手な利用者に教えてもらいながら行っている。また、レクで「君が代」を歌った時、利用者から詩の意味を覚えてもらったりし、職員が利用者から学ぶ場面もある。ホーム全体が大きな家族となり、お互いに支え合いながら、生活を送っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日常会話の中で利用者の気持ちを把握するよう努めている。確認した利用者の気持ちは職員間で情報共有している。できるだけ、職員は1対1の対応をし、利用者の意向を引き出すよう工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者が毎月、利用者の介護計画をモニタリングし、気づいたことを意見として提出することになっている。職員や管理者は、面会や電話の際にも家族の意見を聞き出すよう心がけている。日常会話の中で把握された利用者の思いが反映された介護計画となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月全員のモニタリングをし気づいたことを報告する体制が整備されているため、職員が利用者の状態変化にすぐに気づき、その状態変化に合わせて介護計画を見直している。変更した内容は、家族へ報告し、職員間での情報共有は申し送り等でその日のうちに行うことになっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望により主治医を決めている。訪問診療等も取り入れながら、適切な医療を受けられるよう支援している。また、家族の要望により、通院介助も対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携加算は取っていないが、利用者や家族の希望によりターミナルケアを実施している。そのため、看取りに関する指針を作成し、インフォームドコンセントにより説明し、利用者や家族の同意を得ている。さらに、家族との話し合いの内容を職員間で情報共有しながら対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、職員の意識向上を図りながら、日々の関わり方を点検し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。また、個人情報についても十分注意し、適切な取り扱いをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ごとのホーム内での役割を強制することではなく、利用者の思いを大切にしながらお手伝いをしてもらう、といった形で行っている。食事、買い物、外出、入浴等利用者の希望を取り入れながら支援している。職員は、いつもその人らしさを発揮できる場面作りを心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事一連の作業の中でできるだけ、利用者の力を活かしながら支援している。収穫した畑の野菜やスーパーで買ったバーゲンの食品を使い、一人ひとりの好みに合わせながら食事作りをしている。さらに、火曜と金曜は利用者が楽しみにしているおまかせメニューとなっており、メニュー作りから利用者も参加している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	以前の生活習慣に合わせ、入浴時間は夕方から夜となっている。利用者のその日の希望を聞きながら入浴を支援している。入浴を拒む利用者はいないとのことである。職員は、利用者の羞恥心等に十分配慮して対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	料理の下ごしらえ、テーブル拭き、窓閉め、戸締まり等利用者の役割を見つけて支援している。動物好きの利用者のために、ホーム内で犬を飼い世話好きの利用者達が関わりを持っている。花が好きな利用者には、定期的にホーム内でフラワーアレンジメント教室が開かれており、できあがった作品が居室に飾られている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	年に2~3回バスを借りてホーム全体での遠出の行事が予定されている。それ以外は、ユニットごとだったり、数名単位だったりとその時の状況に応じて外出している。毎週日曜日は、スーパーの特売日となっており利用者も必ず同行し、買い物している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関は施錠していない。ユニットごとの入口にはドアベルを付けて人の出入りが確認できるようになっている。1人で外に出してしまう利用者には付いて行き見守りながら対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回防災訓練を実施している。しかし、実際の火災等を想定した訓練となっていないため、避難時間を測っていない。地域の協力体制も不十分であり、災害時の備蓄もなされていない。	○	できるだけ、いろいろな状況を想定しながら防災訓練を実施し、避難するまでの時間を測り、できるだけ短時間で避難できるよう訓練することが大切である。また、運営推進会議等を利用し地域の協力を呼びかけてほしい。また、災害時の食料や水の確保も必要である。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日のメニューはホーム内の栄養士がカロリーを計算している。さらに、職員は利用者の食事量や水分摂取量等を確認しながら、支援している。食欲のない利用者へは、好みの食べ物や飲み物で対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掘りこたつや一般家庭のような家具を配置し利用者が安らいで居心地よく過ごせるよう工夫している。ホーム内を毎日、水モップをかけているため、気になる臭いも感じられない。共用空間にある七夕飾りが季節を感じさせている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	机、本、写真立て等馴染みの物を持ち込み利用者が過ごしやすい居室となっている。居室内に冷蔵庫を持ってきている利用者については、職員と一緒に中身をチェックしている。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム 羽音

記入担当者名 草野 和子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。